

展葉期の気温経過による カキ品種「会津身不知」の着色開始期の予測手法

福島県農業試験場 会津地域研究支場
平成14年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

果樹－カキ－生育診断予測
分類コード 04－05－25000000

2 担当者

永山宏一・勝又治男

3 要旨

カキ‘会津身不知’の果実発育・成熟と気象要因との関連性を探りながら収穫期の予測手法を検討したところ、着色開始期について、生育期の早い段階に予測が可能となる知見が得られた。この知見を基礎とすることにより、精度の高い収穫期予測法を開発することが可能になるものと考えられる。

- (1) 年次ごとの着色開始期及び収穫期(始・盛)の各生育ステージの暦日を特定するため、毎年9月以降の果実の着色推移を、平核無用カラーチャートを用いて5日おきに調査し、過去11ヶ年のデータを集積した。
- (2) 年次ごとの着色推移データを三次関数の近似式に当てはめ、成熟ステージとして着色開始期:指数1到達日、収穫始期:指数4到達日、収穫盛期:指数5到達日を特定した。さらに、展葉期を起点として各成熟ステージに到達するまでの日数を割り出した。
- (3) 展葉期を起点とする着色開始期到達要日数と展葉後の最高気温の推移に着目して、展葉後日数別の相関係数の推移を見たところ、展葉～展葉後46日の間の最高気温の平均値と強い相関関係が認められた。
- (4) 着色開始期到達要日数を目的変数とし、展葉後46日間の最高気温の平均値を説明変数とした回帰式 $Y = -4.8767X + 246.63$ ($r^2 = 0.7558$)を導き、これにより年次ごとの要日数を計算した結果、当回帰式の精度の高さが認められた。

4 その他の資料等

なし